

ワクチンの基礎知識

免疫がある場合とない場合の感染の違い

免疫がない場合



- 免疫がない状態で感染した場合、発症や重症化のリスクが高いうえに、他人に感染させやすい。

免疫がある場合 (ワクチン接種*、自然感染などで免疫を獲得)

- *ワクチンは病原体や毒素を無毒化・弱毒化したものを接種することで、感染や発症をせずに免疫を獲得する。



ワクチンのメリット

- ワクチン接種の場合、人の免疫反応のしくみを活用して安全に免疫を獲得することができる。
- ワクチン接種により免疫を獲得すると、その病気に感染したり発症しにくくなる。たとえ発症しても重症化しにくい。

ワクチンのデメリット

- ワクチンに対する免疫の働きによる接種部位の腫れや発熱、発疹などの症状が現れることがある。症状は数日～1週間程度で治まる。
- 生ワクチンの場合、その病気のごく軽い症状が現れることがある。
- 重い副反応としてアナフィラキシー(強いアレルギー反応)があるが、迅速に対応すれば後遺障害を残すことはない。アナフィラキシーが発生した場合に備えて、接種後15～30分間は医療機関や接種会場で待機が必要となる。

ワクチンの種類*

生ワクチン

病原性を弱めた病原体を接種して、必要な免疫を獲得する。
主なワクチン: MR(麻しん風しん混合)、水痘、おたふくかぜワクチンなど

不活化ワクチン、組換えタンパクワクチン

感染力をなくした病原体や病原体を構成するタンパク質を接種して、必要な免疫を獲得する。
主なワクチン: 髄膜炎菌、HPV、B型肝炎、DPT(三種混合)、日本脳炎、インフルエンザなど

mRNAワクチン、ウイルスベクターワクチン

ウイルスを構成するタンパク質の遺伝情報を接種して、体内でウイルスのタンパク質を産生させることで、必要な免疫を獲得する。
主なワクチン: 新型コロナワクチン(ファイザー製、モデルナ製、アストラゼネカ製)

*<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/0018.html>

新型コロナウイルス感染症



- 新型コロナウイルスによる感染症で、世界中に感染が拡大している。国内では270万人以上が感染し、1万8千人以上が亡くなっている。(2022年1月末現在)
- 「若者は新型コロナウイルス感染症にかかっても軽症で済む」とされるが、38℃を超える高熱や咳が1週間以上続くなど比較的重症となるケースもある。
- 嗅覚や味覚障害、疲労感、記憶障害などの後遺症が残る場合もある。
- 重症化リスクの比較的低い若者であっても、デルタ株のように感染力の高い株が流行すると感染者数が急増し、重症化するケースが増加しうる。



様々なデマや不正確な情報が多い。SNS上の投稿や個人の噂話は鵜呑みにしないで、科学的根拠に基づいた情報を見極めることが大切。



新型コロナワクチン

- ワクチンを接種すると、感染予防、発症予防、重症化予防が期待できる。
- ワクチン接種後に十分な免疫がつくまでに2回目接種後1～2週間かかる。
- 接種スケジュールは、1回目接種の3～4週間後に2回目、2回目接種から原則8か月以上の間隔をあけて3回目を接種する。
※自治体によっては、接種スケジュールが前倒しになる場合がありますので、自治体からのお知らせに留意してください。
- 海外留学、海外渡航にワクチン接種が必要。
- 食物アレルギーや、アレルギー体質などがあるといった理由だけで、接種を受けられないわけではない。心配な場合は、大学の保健室や医療機関に相談する。



基本的な感染対策の継続



外出控え



密集回避



密接回避



密閉回避

- 不要な外出や「3つの密」は、できるだけ控える。



マスク着用



咳エチケット



換気



手洗い

- マスクの着用、こまめな換気、手洗い、手指消毒を心がける。

感染または感染が疑われる場合の留意点

- 日々の健康観察を行い、発熱や咳などの症状がある場合は、大学の保健施設や医療機関に電話で相談し、指示に従い受診する。
- 診断を受けた場合は、感染を広げないように医師等の指示に従って、入院や自宅待機をする。
- 発症2日前から発症後7～10日間程度は、人にうつす可能性がある。
- 流行中は誰もが感染する可能性があり、感染は責められるべきことではない。感染者は、感染の事実を隠して外出や人との接触をしないようにする。

※2022年1月時点の情報に基づいています。流行する株や感染状況によって取るべき行動は変わりますので、最新の情報に留意してください。

新型コロナワクチン Q&A

検索



<https://www.cov19-vaccine.mhlw.go.jp/qa/>